



学校だより

平成25年6月号
目黒区立第十一中学校
自然宿泊体験教室特集

八ヶ岳自然宿泊体験教室を終えて

6月9日日曜日から12日水曜日の三泊四日、目黒区の施設『八ヶ岳少年自然の家』を本拠地として自然宿泊体験教室が行われました。以前は、1年生が二泊三日の移動教室、2年生で二泊三日の夏休みに行う林間学校でしたが、平成22年度から1年生が三泊四日体験する宿泊体験教室に変わりました。台風の接近と梅雨入りした気候の中、出かけました。1年生が体験している間、東京は雨が多かったと聞いていますが、1年生は、**なんと**ほとんど晴天が続いていました。もちろん雨の時もありました。そのほとんどがバスでの移動時で傘をさす、カップを着るという姿はなんと最終日の山梨県立博物館の駐車場から博物館に入るわずかな距離だけでした。1年生は俗にいう『晴れ男・晴れ女』の集団なのではないでしょうか。

1日目、学校第1グラウンドで開会式を行った後、富士山五合目に向かってバスは走り出しました。五合目はまだところどころ雪が残っていて、特に散策を予定していた『お中道』は雪のために通行不能ということで、急遽昼食と写真撮影場所だった『奥庭荘』散策に変わりました。インストラクターの方々の説明で富士山周辺の知識が増えました。

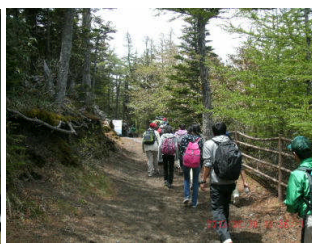
宿舎に着いて開園式、入浴、夕食。そのあと、食堂で八ヶ岳の自然を守るレンジャーの方々に八ヶ岳のすばらしい自然についてお話をいただきました。八ヶ岳の大勢の善意の人たちが守っていることを学びました。

(富士山五合目)

(お中道昼食)

(散 策)

(開園式)



2日目。山登りに出発です。山を登るという厳しい状況の中、仲間と助け合い、お互いを思いやって頂上を目指す。大自然の中ではぐくまれる協力と思いやりがテーマです。

八千穂高原自然園での散策に始まり、白駒の池までのハイキングと池周辺での昼食、そして、いよいよ、高見石までの登山がはじまりました。雪深く、樹木であまり日が差さないような場所は雪が残り、雪がとけきらない土はぬかるみ、傾斜のきついところでは、両手も使って上るような箇所もありました。たぶんこんな体験は初めてだという生徒も多かったと思います。頂上前の山小屋から大きな石が積み上がっているところを上り、頂上はまた別世界でした。すばらしい雲海と雲の切れ間から見える地上の景色はこの世のものとは思えないものでした。皆しばらく頂上にとどまっていました。宿舎にもどって夕食のあとは『きもだめし』大会。レク係の考えたお化け役とオカルト映

画を見ることで怖さは増していきました。あいにく、外は台風の影響で雨だったので、室内での肝試しとなりましたが、意外にこわかったようです。



(白駒の池まで) (白駒の池で昼食) (高見石山小屋前) (高見石頂上)

3日目。八ヶ岳中央農業実践大学校での農林体験です。午前中は希望別ワークショップです。養鶏体験から森林上級体験までそれぞれ体験しました。特に森林上級体験では、木に命綱をつけて木登り用具をつけて5メートル以上登り、枝を切ってくるという高所恐怖症の人ではとうていできないことを皆が恐怖心を押さえ、大学校の先生方の指示に従い、しっかりと役目を果たしていました。午後は全員で植樹と草刈りです。少し遠くの作業場まで行き、白樺の苗木を植え、周りの雑草をかま刈る作業でした。魚と同じで外来種が元々日本の山々を支えてきた草木を侵害している事実を知り、周りに一番大きな顔をして生えている外来種の雑草をみんなで手分けして刈っていました。

夜は室名レクです。レク係が必死で考えた出し物はおなかを抱えて笑うほど楽しいもので、大変有意義なひとときを過ごせました。また、指導員としてきてくださった大学生によるスタンプも大変見応えのあるものでした。



(植樹の前で) (森林上級) (草刈り) (指導員の先生)

4日目。いよいよ最終日、1日目2日目は長いなと思っていましたが、いざ終わるとなると何か寂しさがわき起こってきます。同じ学校、同じクラスで生活する仲間ではありますが、寝食をともにして生活するともっともっとお互いを知ることができ、協力や思いやりの気持ちがよりわいてくるものです。生徒が大好きな漫画に『ワンピース』というものがあります。リーダーであるルフィはいいです。「世の中で一番大切なものは仲間だ」と。今回最も必要としたものは、まさにその仲間力だったと思います。その仲間力を再確認し、思いやりをもって行動できたことに大きな拍手を送りたいと思います。

三泊四日の八ヶ岳自然宿泊体験教室、つらく苦しいこともありました。反省しなければいけないことも多かったと思います。そんなときに多くの大人が一人一人にたくさんの思いやりの気持ちで接してくれました。助けてくれました。今回の宿泊体験で生徒の心に何が残ったのでしょうか。少なくとも仲間を大切にする気持ちと感謝の気持ち、それだけは残ったような気がします。本当にありがとうございました。